

# 中部ペンクラブ

第 80 号

発行所

中部ペンクラブ事務局

〒464-0067 名古屋市中種区

池下1-4-17 オクト王子ビル6階B室

TEL (052) 752-3033 F3011

編集委員長：中 村 賢 三

製作：(株)総研

## 戦争のない世界平和を願う

### 「文芸セミナー」講演の冒頭で

(講師) 中島公男さん

われわれ文学を愛するものにとつて、表現の自由と生命の尊厳、世界平和は第一義である。その観点から、今回のロシアのウクライナ軍事侵攻は極めて遺憾であり、強く非難したい。路上で泣き叫ぶ子供の手をひき、家族と涙の別れをして、着の身着のままで隣国に脱出するウクライナ人を見ていて、心痛極まりない。ロシアは即時停戦すべきである。

戦争は絶対悪である。戦争ほど悲慘で残酷なものはない。いかなる理由があろうと許されるものではない。プーチン大統領の行為は、明らかに国家主義であり、専制主義の何ものでもない。

ロシア文学者のアンドレイ・ゾリ



中島公男さん 令和4年3月13日  
文芸セミナー 愛知芸術文化センターにて

ン氏は、プーチンの軍事侵略の背景に「同胞」と「国家再生」という神話をあげ、一国の指導者のおぞましい人間像を厳しく糾弾した。今回、日本ペンクラブと国際ペンクラブは、連名で戦争の終結を緊急に求める声明を発表した。

現在、世界には主義や価値観の違いによるさまざまな政治や社会体制はあるが、その概念をアウフヘーベにして、より高い理念の「人間主義」に統合・発展されるべきであろう。それを可能にする手段は「対話」しかない。この地球上には人間しかないのだから……。その先には必ず、「平和」という光明が見えてくるに違いないと確信している。

われわれ文学する人間にとって、「戦争とは何か?」「平和とは何か?」「生とは?」「死とは?」の問題は永遠のテーマであり課題でもある。

今回のウクライナ情勢を「対岸の火事」とせず、真摯にこの事態にわが生を重ね、これからもペンを執っていきたい。

《講演は次ページにつづく》

第37回総会は6月19日(日)  
ルブラ王山にて開催します

第35回中部ペンクラブ文学賞表彰式・文学鼎談  
を併せて開催します。

受賞と出版を祝う会(パーティー)の開催の有  
無は、コロナ情勢もあり5月の会員案内にて正式  
にお知らせします。 《本紙3Pにて詳報あり》

第35回中部ペンクラブ文学賞

### 候補 6 作品決まる

本年度の応募は1月15日に締め切られ、22作品  
の応募があった。文学賞運営委員会(西尾典祐委  
員長)において次の候補6作品が選ばれた。4月  
の本選考会を経て受賞作が決定する。

#### ◆候補作品(応募到着順)

「being」 有芳 凜 (名古屋市中種区)

『じゅん文学』 106号 貝谷 京子 (名古屋市中種区)

『ポジティブ』 水田 まり (志摩郡)

『ピンクのワンピース』 吉永ケイト (豊橋市)

『竹の家』 『P.』 35号 (四日市市)

『モーニング・グローリー』 四流色夜空 (名古屋市中種区)

『HEAVEN 2020』 (名古屋市中種区)

『蛭と石楠花』 佐藤 駿司 (大津市)

『楽雅鬼』 (大津市)